



# スルメイカ冬季発生系群の2025年資源量 の漁期中推定値の検証

水産政策審議会第141回資源管理分科会で示した結果

# 本資料の背景・目的

## 背景

- 2025年11月5日開催 水産政策審議会第141回資源管理分科会において、水産機構が資料を公表
- 道東・青森・岩手・宮城の主要港における漁期中（2025年7～9月）の小型いか釣り漁業のスルメイカCPUE（1日1隻当たり漁獲量）を報告
- 1980～2024年の7～9月CPUEと資源評価推定値の関係から、2025年7～9月のCPUEを用いて2025年の資源量を漁期中に推定
- 漁期中推定値から2025年の算定漁獲量を算出
- 算定漁獲量に基づき、令和7管理年度の第2回TAC期中変更を実施

## 目的

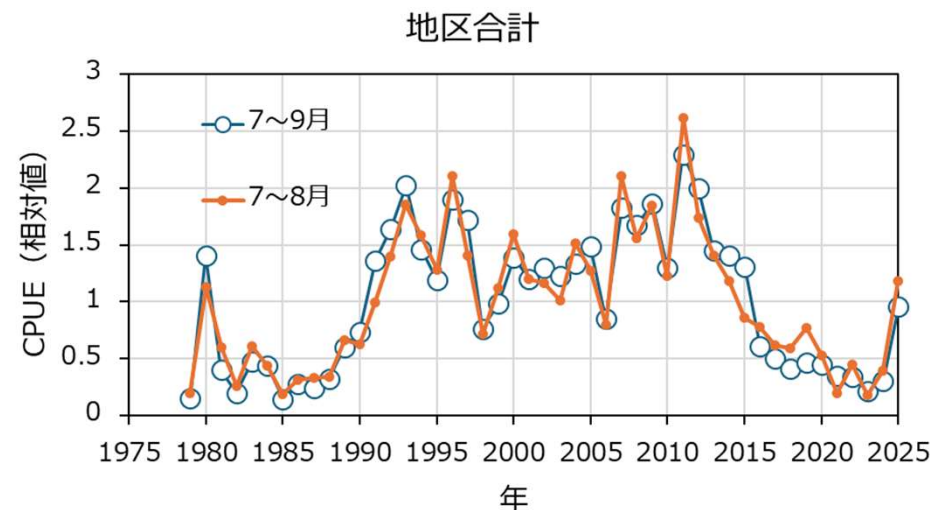
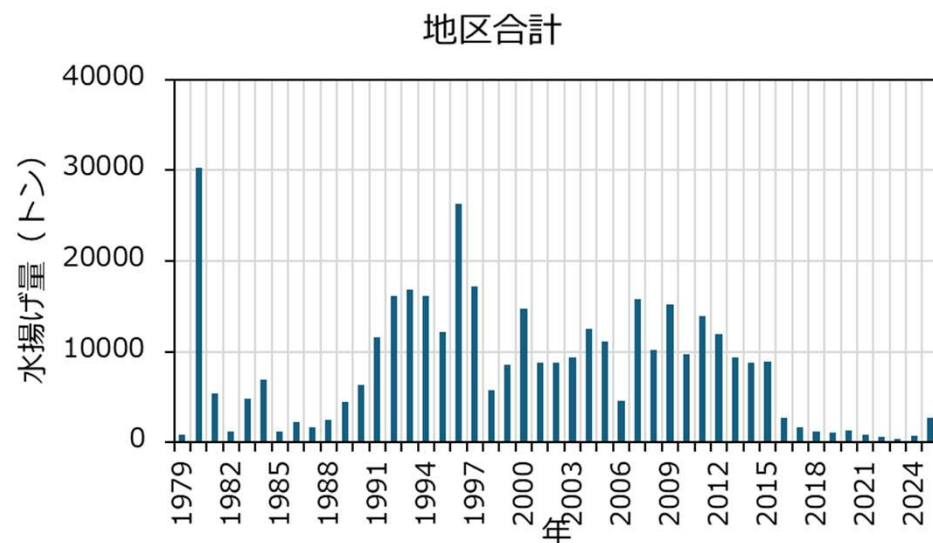
令和7管理年度第2回TAC期中変更で用いたスルメイカ冬季発生系群の2025年資源量の漁期中推定値について、令和7年度資源評価による資源評価推定値との比較を通じて、推定結果を検証する。

## 内容

- 7～9月小型いか釣り漁業CPUEを用いた2025年資源量の漁期中推定方法
- 漁期中推定結果の検証
- 漁期中推定値に基づく算定漁獲量

# 7～9月の小いか漁獲量とCPUE

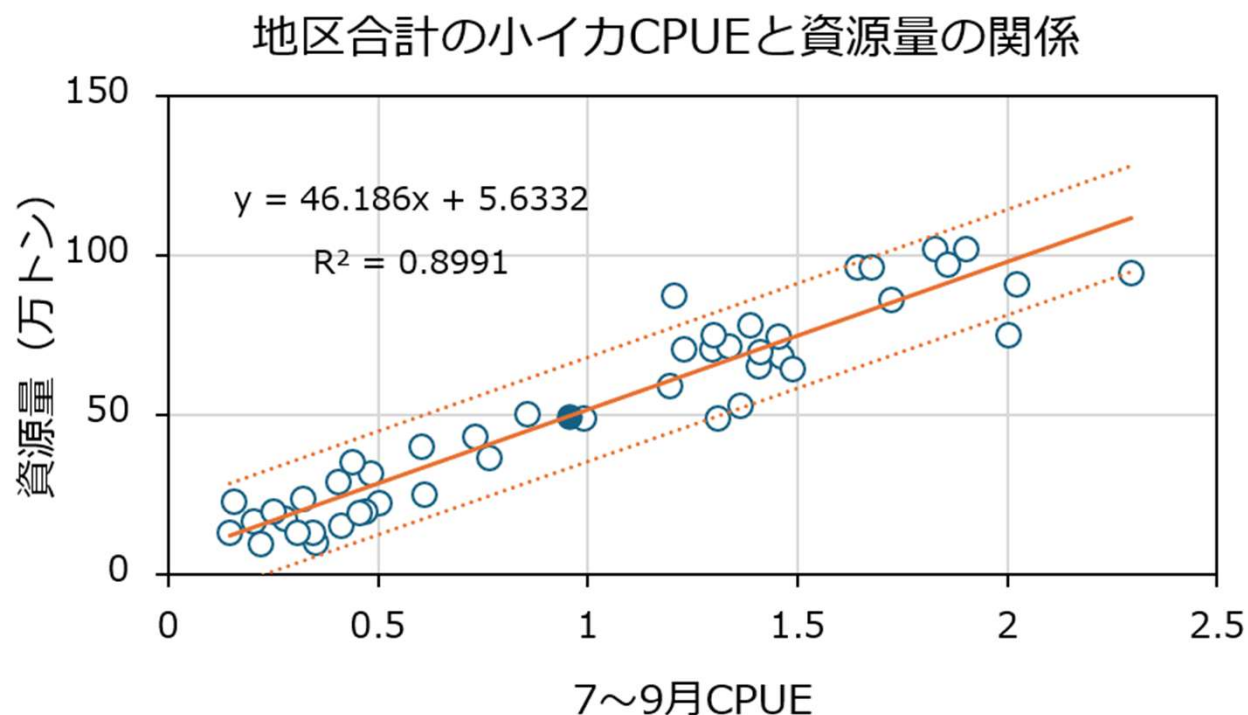
データを使用した地区：**道東主要港、浦河、函館、大畑、八戸、岩手県主要港、宮城県主要港**



※図中の7～8月は、八戸、岩手県主要港、宮城県主要港のCPUE

7～9月の7地区合計のCPUEは、7～8月の3地区合計のCPUEと同様の傾向を示した。

# 7～9月小いかCPUEと資源量の関係



\*本資料では、以降、49.8万トン  
「漁期中推定値」と表記

※図中の点線は、90%予測区間

2025年7～9月のCPUE (0.96) から計算される同年の資源量は49.8万トン\*  
(90%予測区間：33.6万～66.0万トン)、同年の算定漁獲量は2.0万トン

※算定漁獲量の算出には2024年度スルメイカ冬季発生系群の資源評価で用いたパラメータを用いた。

令和7年11月5日水産政策審議会141回資源管理分科会水産機構資料

# まとめ

---

スルメイカ冬季発生系群の資源量推定に用いる小型いか釣りの漁況について、7～9月における7地区（道東主要港、浦河、函館、大畑、八戸、岩手主要港、宮城主要港）のCPUEを検討した結果は、以下のとおりである。

1. 2025年の7～9月における7地区合計のCPUEは、7～8月の3地区（八戸、岩手主要港、宮城主要港）の同年のCPUEと同程度であった。
2. 2025年の7～9月CPUE（相対値※）は0.96となり、資源量が低迷した直前の2014年を下回ったものの、全期間の平均値とほぼ同程度であった。
3. 2025年の7～9月CPUEから計算される同年の資源量は49.8万トン（90%予測区間：33.6万～66.0万トン）、算定漁獲量は2.0万トン

今回示したCPUEは、前回報告よりも時間的および地域的に拡充した情報に基づいている。

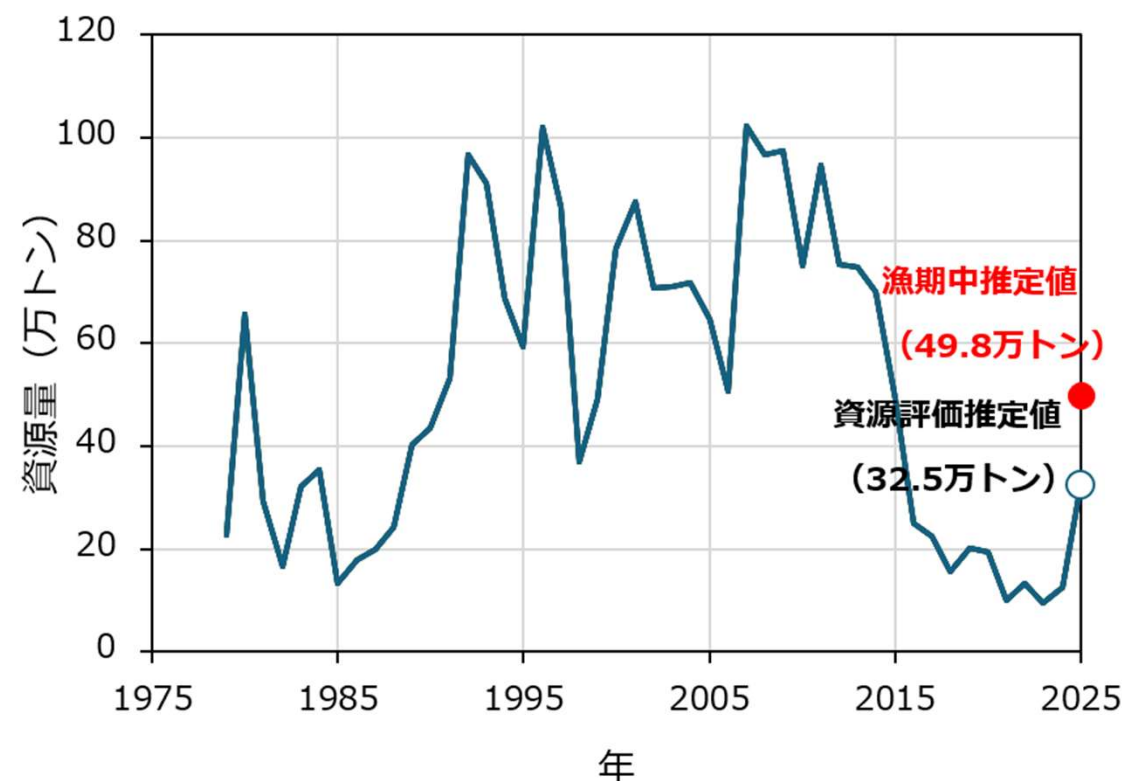
太平洋沿岸域を中心とする2025年の小いかCPUEは、近年の低下傾向の中では相対的に高い水準であったが、1979年以降の長期的な観点から見ると、平均的な水準にあると評価される。

※平均が1となるように、各年のCPUEを相対化

# 2025年資源量：漁期中推定値と資源評価推定値

- 令和7年度スルメイカ冬季発生系群資源評価による、2025年資源量の資源評価推定値は32.5万トン。
- 漁期中推定値（49.8万トン）は、資源評価推定値（32.5万トン）を上回り、資源評価推定値の153%であった。

令和7年度資源評価による資源量推定値

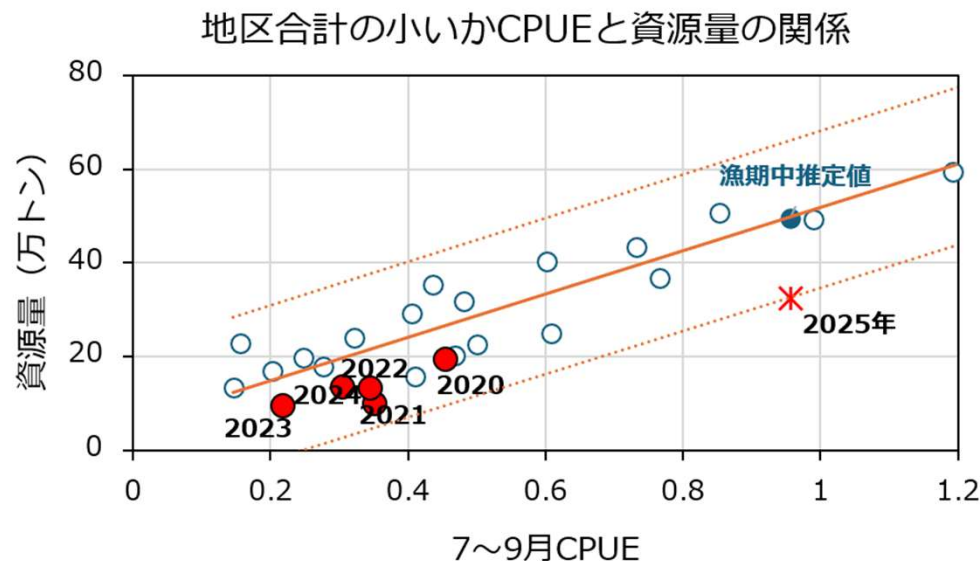


# 漁期中推定値と資源評価推定値の比較（2020～2025年）

2025年の結果を近年の状況と比較し、漁期中推定の傾向を確認。

## 上図

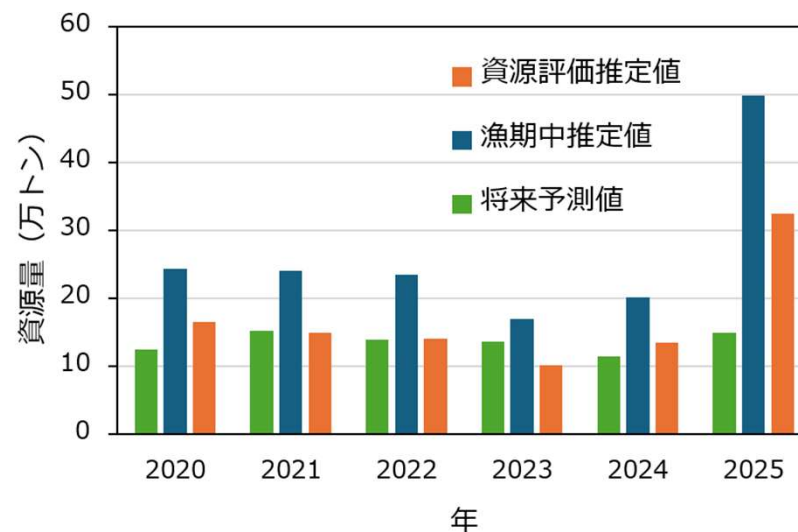
- 資源評価推定値は回帰直線の上下に分布し、7～9月CPUEによる漁期中推定には誤差が伴う。
- 2025年の資源評価推定値は、回帰直線から大きく下方に位置した。
- 2020～2024年でも、資源評価推定値は回帰直線より下方に位置した。



## 下図

- 2020～2025年の漁期中推定値は、いずれも資源評価推定値を上回った。
- 前年の資源評価における将来予測値は、資源評価推定値を上回る年と下回る年がみられた。
- 一方、より長期的にみると、資源量が高水準であった時期を含め、資源評価推定値が漁期中推定値を上回る年もあった。

将来予測値・漁期中推定値・資源評価推定値の比較

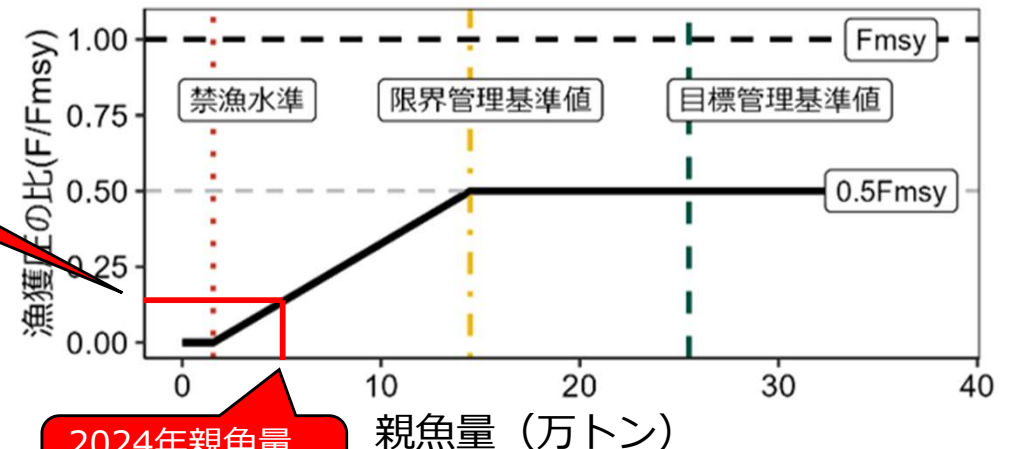


# 2025年資源量の各時点の値と算定漁獲量

2025年11月のTAC期中変更では、漁期中推定値に基づく算定漁獲量を、あらかじめ定められた規則（漁獲管理規則）に従って算出

2025年の  
漁獲圧の比  
0.16

スルメイカ冬季発生系群の漁獲管理規則



2024年親魚量  
5.7万トン

## 2025年の資源量と算定漁獲量の推移

- 2024年11月末 令和6年度スルメイカ冬季発生系群資源評価
  - 将来予測値 15.0万トン
  - 算定漁獲量 0.6万トン
- 2025年11月5日 水政審141回資源管理分科会（期中変更）
  - 漁期中推定値 49.8万トン
  - 算定漁獲量 2.0万トン
- 2025年11月末 令和7年度スルメイカ冬季発生系群資源評価
  - 資源評価推定値 32.5万トン
  - 算定漁獲量 1.3万トン

# まとめ

---

## 検証結果

- 7～9月小いかCPUEによる2025年資源量の漁期中推定値（49.8万トン）は、資源評価推定値（32.5万トン）を上回った。
- 2020～2025年では、7～9月小いかCPUEによる漁期中推定値は、いずれも資源評価推定値を上回った。

## 考察

- 今回の検証では、7～9月小いかCPUEによる漁期中推定値と資源評価推定値との間に差が認められた。
- 資源管理への適用に当たっては、上記の差が資源管理に与える影響について科学的検討を進める必要がある。
- 資源量の漁期中推定手法については、今回の検証結果を踏まえ、検討を進める必要がある。